

## 「国立公園への誘客」議事要旨

---

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月22日(火)13:00～15:00
2. 場所：十和田ビジターセンター
3. 登壇者：  
十和田八幡平国立公園管理事務所 所長 森川久  
一般社団法人十和田奥入瀬観光機構理事長 小野田金司  
青森大学総合経営学部教授・観光文化研究センター長/NPO 法人みちのくトレイルクラブ  
代表理事 佐々木豊志  
風景屋 小林徹平  
星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル アクティビティユニットディレクター・NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会 副理事長 丹羽裕之

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明 森川久
2. 講演①「観光から見た国立公園の自然」 小野田金司
3. 講演②「自然から見た国立公園の観光」 佐々木豊志
4. パネルディスカッション  
「これからの国立公園における誘客のあり方とは？」  
ファシリテーター 小林徹平  
パネリスト 小野田金司／佐々木豊志／丹羽裕之
5. 閉会挨拶 森川久

\* 敬称略・順不同

---

### 1. 開会挨拶及び施策説明

日本政府は平成28年3月「明日の日本を支える観光ビジョン—世界が訪れたい日本へ—」を掲げ、観光先進国を目指そうと、国として10の改革を進めています。国立公園については、世界水準のナショナルパークへのブランド化を図るべく、訪日外国人向けに国立公園満喫プロジェクトを平成28年12月から実施しております。国立公園の雄大な自然の中で、時間を忘れて旅をすることで、自然の関係性を心と体で理解できる場所というのも、国立公園ならではの特征ではないかと思えます。現在コロナ禍において、国立公園はワーケーションの場所として注目が集まっており、これまでの観光の捉え方に縛られず、新しい国立公園への誘客を考えていく機会が、今回のシンポジウムの中で打ち出せるのではないかと期待しております。

## 2. 講演①「観光から見た国立公園の自然」 小野田金司

私は大阪観光大学で観光について教鞭をとっていますが、現場が好きで地域の観光振興に携わっています。十和田奥入瀬観光機構は、観光庁が認定する日本版地域DMO（観光地域づくり法人）です。十和田湖畔の観光交流センター「ぷらっと」と、十和田市内の観光物産センターの2ヶ所を拠点にして12名の職員が、十和田奥入瀬地域の観光地域づくりと旅行業などの収益事業を地域の事業者とともに進めています。

ポストコロナの国立公園の誘客には、まずは十和田湖周辺の廃墟を整理し、環境を整えながら、「量より質」を基本的な考えとして観光戦略を構築し、美しい「十和田湖」をテーマに周辺のインフラ、宿泊、交通、ガイドなどを整えていきたいと思っています。そして美しい国立公園十和田奥入瀬をリスペクトしてくれる顧客の創出とファンコミュニティづくりを目指していきます。

## 3. 講演②「自然から見た国立公園の観光」 佐々木豊志

私は青森大学の観光文化研究センター長、NPO法人みちのくトレイルクラブの代表理事もしています。自然学校という視点から国立公園の観光について考えると、自然体験型教育から学んで自然体験型観光へつながっていくと考えています。

自然体験型教育において、人のつながりは野外教育、自然保護は環境教育、リスクマネジメントは冒険教育から学べることから、自然と教育はつながっているフィールドだと思います。地域の子どもたちが国立公園で自然体験型教育を受けるということが、今後、国立公園の観光を育てるキーワードになると思います。

## 4. パネルディスカッション 「これからの国立公園における誘客のあり方とは？」

### ① 小野田

星野グループの奥入瀬溪流ホテルのように、ブランディングができたホテルには、宿泊客が周辺の体験ツアーに参加している。そういう好循環を十和田湖周辺でも街中でも作っていく。量よりも質を追求することが大事だと思います。魅力ある自然が壊れるのは本意ではないので、その点は慎重に進めたいです。

### ② 佐々木

お金を払えば手に入るものはたくさんあります。しかし手間をかける体験型の観光を通じて、一人ひとりが何か気付いたり、何か変化したりする。非日常の体験で、日常に戻った時に何か役立つものがあると信じています。手間はかかるけど、面白い体験をやってみるといようなプログラムがこれからは必要。その手間を惜しまないで関われる人づくりができればと思います。

### ③丹羽

星野リゾート奥入瀬渓流ホテルで、アクティビティのディレクターとして、いろいろな観光コンテンツを作ったり、ビジターの人たちがこの地域を訪れたいと思う魅力を作ったりするかたわら、NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会の副代表を務めています。ご紹介したいのは、環境省と十和田市と民間のホテルが集まって生まれた氷瀑ライトアップというコンテンツです。夜の奥入瀬渓流の自然、滝が凍る瞬間や、夜の色々な生き物に目を向けるもので、環境配慮型で始めました。2階建てのバスを利用した渓流オープンバスツアーで、コロナ禍においても3密回避で楽しめるプログラムです。国立公園の中でホテルを通じて展開しております。

### 5. 閉会挨拶 森川久

国立公園は、日本全国に34カ所あり、皆さま方の近くにもあると思います。改めてここも国立公園だったのかと認識される機会が持たれるとうれしいです。残念ながら、国立公園という認知度が日本国民の中で広がっているかというと、若干足りない部分もあります。そのため、まずは国立公園を知っていただきながら、国立公園の価値を高めていきたいです。

以上